

あいち農産物生産流通レポート

平成30年2月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 新たな加工食品の原料原産地表示制度が始まりました！	(食育消費流通課) 1
◎ 地域トピックス	
・ “2018花半島事業フラワーフェスティバル”が 開催されました	(知多農林水産事務所) 2
・ 「第70回関西茶業振興大会愛知県大会」式典と PRイベントが開催	(豊田加茂農林水産事務所) 3
◎ 東日本情報	
・ 「東京いちじくプロジェクト」の取組	(東京事務所) 4
◎ 西日本情報	
・ 2017年の農業総合試験場の10大成果	(農業総合試験場) 6
◎ フラワーページ	
・ 千葉県の花きの販売促進に係る取組	(千葉県流通販売課 首都圏マーケティングセンター) 8
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の2月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切り花・鉢花の2月の見通し(県内市場)	22

内容についての問合せ先

愛知県農林水産部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

平成29年4月号から、「全国における主要農産物の輸出入実績」、「関連指数」のページはなくなりました。それぞれの情報につきましては、

【輸出入実績】

農林水産省ホームページ内「農林水産物輸出入統計」
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>

【消費者物価指数】

全 国：総務省統計局ホームページ内「消費者物価指数月報」
<http://www.stat.go.jp/data/cpi/>
名古屋：愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/bukka.html>

【農作物価指数】

農林水産省大臣官房統計部「農作物価統計調査」
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noubukka/>

【名古屋市小売価格】

総務省統計局「小売物価統計調査」
http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_

を御覧ください。

新たな加工食品の原料原産地表示制度が始まりました！

食育消費流通課

食品表示法に基づく食品表示基準が平成29年9月1日に改正され、加工食品の原料原産地表示制度が変更されました。新たな制度では国内で製造又は加工した全ての加工食品（輸入品を除く。）について、「原料原産地表示」が義務付けられました。

1 基準改正のポイント

(1) 義務付けの対象

平成29年9月1日以降に国内で製造又は加工した全ての加工食品について、原料原産地表示が必要になります（表1参照）。

(2) 対象原材料

原則として、製品に占める重量割合上位1位の原材料が義務表示の対象となります。なお、重量割合上位2位以降の原材料も自主的に原料原産地表示が行えます。

(3) 表示方法

- ①重量割合の高いものから順に国名を表示する「国別重量順表示」を原則とします。
（表示例：豚肉（アメリカ、国産））
- ②対象原材料が中間加工原材料の場合、原則として、「製造地表示」をします。
（表示例：りんご果汁（ドイツ製造））
- ③原産国が3か国以上ある場合は、これまでの表示方法と同様に、重量割合の高いものから順に国名を表示し、3か国目以降をその他と表示することができます。
（表示例：豚肉（アメリカ、カナダ、その他））
- ④国別重量順表示が難しい場合は、一定の条件の下で「又は表示」「大括り表示」等が認められます。
（表示例：〔又は表示〕豚肉（アメリカ又は国産）、〔大括り表示〕豚肉（輸入））
- ⑤おにぎりののりは、のりの原料となる原そうの原産地を国別重量順に表示します。
（表示例：のり（国産））

(4) 経過措置期間

平成34年4月1日に完全義務化されるまで、移行期間が設けられています。

表1 原料原産地表示制度の主な改正点

平成13年から順次対象品目を拡大	平成29年9月～
22食品群 （生鮮食品に近い加工食品） 主な原材料（原材料及び添加物に占める割合が50%以上のもの）が義務付けの対象（ 今後も変更なし ）	全ての加工食品に拡大 製品に占める重量割合上位1位の原材料が義務付けの対象
4品目 農産物漬物（上位4位（又は3位）かつ5%以上の原材料） 野菜冷凍食品（上位3位かつ5%以上の原材料） うなぎ加工品（うなぎ） かつお削りぶし（かつおのふし） 個別に義務付けられた原材料を国別重量順に表示（ 今後も変更なし ）	おにぎりののりを追加 個別に義務付けられた原材料を国別重量順に表示

・基準改正前から原料原産地表示が義務化されている22食品群及び4品目の表示ルールは、基準改正後も原則として変更はありません。ただし、22食品群の場合、原材料及び添加物に占める割合が50%未満でも重量割合上位1位の原材料は原料原産地表示が義務付けられます。

“2018 花半島事業フラワーフェスティバル” が開催されました

知多農林水産事務所

平成 30 年 1 月 20 日(土)、21 日(日)の 2 日間、常滑市のイオンモール常滑において、「2018 花半島事業フラワーフェスティバル」が開催されました。11 回目を迎えたこのフェスティバルは、知多半島の花きの魅力を存分に発信し、地域を彩る華やかなイベントとして定着しています。

1 フェスティバルの概要

本フェスティバルは、地域の農業団体・行政・観光団体が展開する四季を通じて花の咲きほころぶ「知多半島・花半島」を目指す「花半島事業構想」の一環として、平成 19 年度から開催されており、知多地域の 5 市 5 町を一巡して今回で 11 回目となります。

今回はこれまでの展示中心のフェスティバルから、新たな展開として J A あいち知多が主体となり花きの販売や花きを利用した体験、インテリアとしての花きの提案など、盛りだくさんの内容で開催されました。



モニュメント「ヒナラン」

2 展示、体験の内容

1 階の会場では、知多半島産のデンドロビウムをひな祭りのイメージで飾り付けた「ヒナラン」と、カーネーションなどで知多半島の形を表現した巨大モニュメントが展示されました。

また、洋らんや切花アレンジなどをお手頃な価格で販売するとともに、「フラワー輪投げ」や「つかみ取り」など子供向けの体験コーナーを設け、賑わいをみせていました。

2 階では、市町ごとの特色を活かした飾り付けが華やかに展示されるとともに、長く観賞でき、おしゃれなインテリアとして話題のハーバリウム（ドライフラワーを専用のオイルで瓶詰めにしたもの）づくり体験が人気を集めました。

両日とも会場には大勢の方が訪れ、愛知県有数の花き産地であり、季節の花で溢れる「知多半島・花半島」が大いに PR されました。



モニュメント「知多半島」
(フォトスポットとして PR)



お客で賑わう会場

「第70回関西茶業振興大会愛知県大会」式典とPRイベントが開催

豊田加茂農林水産事務所

12月16日、豊田市において第70回関西茶業振興大会愛知県大会の最後の催しとして、大会式典とPRイベントが開催されました。豊田市での開催は15年ぶりとなります。

この大会は関西・東海の6府県（愛知、岐阜、三重、滋賀、奈良、京都）の茶の特徴を明らかにして生産技術や品質向上を図ることを目的に開催し、国内の需要増進、茶業の発展に寄与しています。

大会の主要行事は、①出品茶品評会、②出品茶入札販売会、③大会式典及びPRイベントの3部構成で、今回開催された式典とPRイベントも盛況のうちに終了しました。

1 出品茶品評会、出品茶入札販売会の開催実績

(1) 出品茶品評会（平成29年8月1日から3日まで開催）

5茶種570点が出品され、管内では豊田市がかぶせ茶部門の産地賞を受賞しました。個人でもかぶせ茶部門で豊田市の藪押博茂氏が、てん茶部門で豊田市の石川龍樹氏がそれぞれ最高賞である農林水産大臣賞を受賞しました。

(2) 出品茶入札販売会（平成29年9月14日開催）

90の参加業者が参加し、普通煎茶やかぶせ茶、てん茶などの入札が行われました。入札販売会では予想以上に高額での落札もありました。

2 大会式典及びPRイベント

豊田市民文化会館で開催され、大会式典のほか、出品茶展示、茶業関連機資材展、茶のPRイベントなどが行われました。

大会式典では、出品茶品評会の表彰式が行われ、農林水産大臣賞を受賞した藪押氏と石川氏、産地賞を受賞した豊田市の代表として豊田市茶業組合の二村勝組合長らが表彰を受けました。

茶のPRイベントでは、無料呈茶、抹茶の石臼挽き体験、出品茶販売、抹茶スイーツ販売、茶器販売、御当地アイドルのライブなどが開催されました。限定販売の抹茶スイーツは午前中で完売するほどの売れ行きとなり、抹茶商品の人気の高さを実感することができました。午後からの御当地アイドルによるトークショーやライブは大いに盛り上がり、トークショーとライブの間には販売応援もしていただきました。

また、会場内には豊田市の啓発コーナーも設置され、地元のジビエ業者「山恵」によりシシ鍋が無料で振舞われました。シシ鍋が来場者の体を暖めてくれ、ジビエ料理の良いPRにもなりました。



大会式典（知事挨拶）



かぶせ茶の無料呈茶席

「東京いちじくプロジェクト」の取組

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

1月25日（木）、東京都千代田区神田錦町の「ちよだプラットフォームスクエア」において、NPO法人農業情報総合研究所が主催する農業ビジネス研究会が開催されました。同研究会は、農業に関心を持つ社会人や学生を対象に年間3～4回ほど講演会を開催し、多様な業種・立場による意見交換・交流を行っています。

今回は、東京都八王子市で新規にいちじく栽培を始めた船木将平氏による「東京いちじくのチャレンジ」と題した講演が行われ、その後、参加者との交流会が行われました。

1 東京いちじくプロジェクト

船木氏はかつて新規就農と同時に農業法人「株式会社フィオ／F I O（以下F I O）」を仲間数人と立ち上げ、体験農園を核として企業とタイアップした各種イベントや商品プロデュースなど、様々な取組を展開してきました（表1、表2）。

その後、5年間携わってきたF I Oを離れ、東京都八王子市に1,000㎡の畑を借り、いちじくを専門に生産・販売・企画する「東京いちじくプロジェクト」を立ち上げました。同プロジェクトの目標は、『東京の農地でいちじくを栽培・販売していく中で、地域の人達が様々な恩恵を受けられる商品(仕組み)づくりをする』ことで、生産性や利益の追求だけでなく、「都市農業」「コミュニティ」「障害者福祉」といったキーワードに重点が置かれています。

プロジェクト自体はまだ始まったばかりですが、今回注目したいのは船木氏の強力な発信力で、過去の経験と本人の魅力がなせる技か、何かを伝える力や周りを巻き込む力は折り紙付きです。

表1 F I Oの会社概要

「地域社会の為に地域の一員として、持続可能な社会を創造する」を理念に、2012年に東京都八王子市にて起業。農作物生産だけでなく、マルシェ等を通じた野菜・蜂蜜の直接販売や住宅地に近い立地を活かした農に触れるイベントを多く開催。会社名は創業時のメンバー、船木、飯田、大神の頭文字に由来。

表2 船木氏がF I O時代に携わった主な企画

- 体験農園を核としたイベント開催(地域系・福利厚生系・大学系など)
- レストラン等への契約販売
- 行政や鉄道会社とタイアップしたイベント開催(各種マルシェ等)
- 商品プロデュース
- 企業等との連携・コラボ：百貨店、大学、福祉施設、新聞社、他農業法人等

2 ライバルは「東京ばな奈」

東京土産の定番の「東京ばな奈」ですが、この商品に携わる人や会社は多数に及びます。生産から流通、販売まで「東京ばな奈」に関係する人達にとって、この商品の存在は死活問題であり、日常生活を送る上でなくてはならないモノになっています。

船木氏からは「東京いちじく」も東京土産で同じポジションを狙うとの話がありました。これは1つの商品としてだけではなく「東京いちじくプロジェクト」全体が、プロジェクトに携わる全ての地域の人達に対して「なくてはならない存在」でありたいという思いがあるようです。



船木氏による講演風景

3 生果は売らない

船木氏はいちじくの生果で商売するつもりはないそうです。青果物としては売らないことで、生産者と消費者の間に地域の加工業者や飲食店が入り、そこにビジネスが生まれるという考えを持っています。彼にとってはいちじくは手段であり、最後に消費者の手に渡るまでに多くの人に関わり、商圈が作られることで、「ビジネスになくてはならない材料」「地域に根ざしたモノ」「コミュニティの核」に育てる思惑があります。

この「東京(首都圏)でのいちじくの認知度を高め、日常生活にいちじくを組み入れる」という活動は、首都圏に大きな販路を持つ愛知のいちじく生産者・産地にとっても有益といえます。

4 いちじくの消費拡大に向けて

地域を重視する「東京いちじくプロジェクト」ですが、決して排他的なものではなく、船木氏自身も愛知県のいちじくを視察するなど、多くの人と繋がりをつくり、連携することを否定していません。

過去に農業法人において多くのイベント企画や異業種とのコラボを手がけるなど、豊富で強い企画発信力がある船木氏の取組はいちじくを首都圏消費者の生活に浸透させるという点で、愛知県のいちじく産地にとっても大きなメリットになると思われます。

このような取組を応援・連携することで、「いちじく全体」の知名度を高めていくことは、いちじくの消費拡大にとっても重要なことと考えられます。日本一のいちじく産地である愛知が、新たに始まった「東京いちじくプロジェクト」を応援・連携するなど、ストーリー性が高く面白い取組もできるかもしれません。



東京いちじく

東京いちじくプロジェクト
のロゴ

2017年の農業総合試験場の10大成果

農業総合試験場

農業総合試験場では、農業の発展や農家経営の改善のため、新しい品種や高度な栽培技術・飼養技術の開発を行っています。こうした試験研究について、広く県民の皆様に理解を深めていただくため、毎年、農業総合試験場の研究成果の中から、特に優れたものや社会的関心の高いものを「10大成果」として選定しています。この度、2017年の「10大成果」を選定しましたので、紹介します。

1 2017年の「10大成果」

第1位	華麗な花びら「かがり弁」の輪ぎく新品種を開発
第2位	名古屋コーチンの肉用新系統「NGY7」を開発
第3位	植物成長調整剤によるコショウランの品質向上技術を開発
第4位	病気に強い水稻New「ミネアサヒ」を開発
第5位	くくり罨補助具「からまる棒」を開発
第6位	カットやスライス用に適したトマト「サンドパル」の特性を活かす栽培技術を開発
第7位	小麦「きぬあかり」の生育予測技術を開発
第8位	ファージ添加により微生物の病害抑制効果が向上
第9位	たまり粕を利用した敷料向け堆肥生産技術を開発
第10位	農業水路に転落したカエルの脱出ネットを開発

2 選定方法

(1) 選定委員

菊永 博	中日新聞事業局社会事業部 部長
柴田 智子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 消費生活アドバイザー
山内 章	名古屋大学大学院生命農学研究科 教授
吉澤 一幸	東海漬物株式会社漬物機能研究所 所長
濱田 千裕	愛知県農業総合試験場 場長

(五十音順)

(2) 選定の手順

選定委員が各研究成果に対し、「実用性」、「新規性」、「社会性」、「普及性」の項目について5段階で評価し、その合計点を得点としました。合計点の高い研究成果から、10大成果を選定しました。

3 特徴・傾向

産地が期待する新品種や新系統の開発に関する成果は、第1位の“華麗な花びら「かがり弁」の輪ぎく新品種を開発”を始め、“名古屋コーチンの肉用新系統「NGY7」を開発”（第2位）、“病気に強い水稲New「ミネアサヒ」を開発”（第4位）の3課題が選定されました。

生産者の収益向上や経営安定につながる技術開発の成果は、“植物成長調整剤によるコショウランの品質向上技術を開発”（第3位）や“カットやスライス用に適したトマト「サンドパル」の特性を活かす栽培技術を開発”（第6位）、“小麦「きぬあかり」の生育予測技術を開発”（第7位）、“フェージ添加により微生物の病害抑制効果が向上”（第8位）、“たまり粕を利用した敷料向け堆肥生産技術を開発”（第9位）の5課題が選定されました。

動物の習性や生態を調査し、獣害対策や生態系に配慮した農業を行うために技術開発された成果は、“くくり罟補助具「からまる棒」を開発”（第5位）と“農業水路に転落したカエルの脱出ネットを開発”（第10位）の2課題が選定されました。

4 公表

農業総合試験場のWebページ (<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>) で、10大成果の詳細がご覧いただけます。

第1位



華麗な花びら「かがり弁」の輪ぎく新品種を開発

第2位



名古屋コーチンの肉用新系統「NGY7」を開発

第3位



植物成長調整剤によるコショウランの品質向上技術を開発

第4位



いもち病の発生比較
左:New「ミネアサヒ」、右:「ミネアサヒ」

病気に強い水稲New「ミネアサヒ」を開発

千葉県の花きの販売促進に係る取組

千葉県流通販売課首都圏マーケティングセンター

1 千葉県花きの現状について

千葉県の花き産出額は187億円（平成28年生産農業所得統計）で、愛知県に次ぎ全国第2位の産出額となっています。大消費地に近い立地を生かした、千葉県産花きの魅力を発信するための取組をご紹介します。

2 産地見学会とフェアの連動による販売促進

千葉県では、卸売会社やJA全農千葉県本部と連携して、都内を中心に多店舗展開する小売店の販売員を対象に、産地見学会を開催しています。品目は、ヒマワリ、ストック、カラー等、千葉県の主力品目を中心に行っています。

ヒマワリは、平成27年から毎年5月下旬に開催しており、圃場や集出荷場の見学に加え、ヒマワリの生産から出荷までの状況を説明しています。圃場では、生産者が栽培管理方法や品種、時期ごとの特性について、集出荷場では、農協担当者が目揃え会で出荷の際の注意事項等について説明を行います。生産者の栽培への熱意や品質の均一化への厳しい姿勢など、産地の取組を販売員の方に直接肌で感じていただくことで、消費者へ具体的な商品説明ができ、販売意欲の向上にも繋がっています。実際に参加された方からは「産地、品種の特徴の理解が深まった。販売の時にお客さんに伝えたい。」などの感想がありました。

産地見学会に参加いただいた店舗には、6月上旬にヒマワリフェアを開催していただき、その後の父の日需要に向け更なる弾みをつけています。フェアの際は、産地関係者が店舗を回り販売状況や要望などの意見を伺っています。



圃場での見学の様子



店舗でのフェアの様子

3 消費拡大に向けて

参加いただいた販売担当の方々は、生産現場を初めて見た方がほとんどでした。消費者と直に接する販売員の方々が生産側と交流を持つことは、消費拡大に効果があると考えています。花き業界全体の発展のため、今後とも県として活動を支援していきます。

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：ブロッコリー）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛知産	前年の主な他産地 (上位3産地)
29年実績	6, 299	1, 898 (30%)	405	322	北海道 (18%) 鳥取 (15%) 長野 (14%)
30年見通し	6, 500	—	420	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>前年秋の台風と天候不順、冬期の低温により現在の入荷は減少している。この先もしばらく入荷量は少ない見通し。一方で、愛知などの産地では作付面積が横ばいからやや増加傾向にあり、年間を通した入荷量は平年並になると思われる。 入荷量は前年をやや上回り、価格も前年をやや上回る見込み。</p>			<p>産地間、個人間の品質格差の是正と、市場への安定した入荷量の確保をお願いしたい。 また、本作は気象災害等により年末頃から市場入荷が少ない状況であるが、安定販売のためにも、1～2週間後の直近の出荷見通しなど産地から市場への精度の高い情報提供をお願いしたい。</p>		

○ 東京都中央卸売市場（品目：ブロッコリー）

	入 荷 量 (t)	うち愛知産	卸 売 価 格 (円/kg)	愛知産	前年の主な他産地 (上位3産地)
29年実績	28, 765	4, 834 (17%)	393	302	香川 (17%) 北海道 (16%) 埼玉 (12%)
30年見通し	25, 000	—	420	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>香川、愛知に北海道が続く。前年の入荷は天候に恵まれて数量が増加した。前年秋の台風と天候不順、その後の低温により定植直後や生育初期の根が傷んでおり、肥大不足、生育遅延の影響が出ている。年内の入荷は全国的に少なかったが、年明け後も降雪、低温及び干ばつにより入荷は緩慢な動きとなる見込み。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>			<p>全国的に産地が増えている。春先から夏にかけての流通面での劣化対策に取り組んでいることから消費が定着し、国産野菜として通年販売できる売れ筋商品になっている。 愛知産は数量があり、品質面でも高い評価を受けている。「愛知産ブロッコリー」として、今後も安定した入荷量と精度の高い産地情報提供をお願いしたい。 また他産地も対策を進める中、春先以降は黄変や劣化対策に留意していただきたい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の2月の見通し

名古屋市中央卸売市場

1月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	前年主要産地 (%)			
				上旬	中旬	下旬	
野菜計	25年	31,304	202	220	194	196	愛知 27%
	26年	31,144	216	220	212	218	北海道 26%
	27年	31,348	227	227	227	229	静岡 7%
	28年	32,001	237	235	239	233	茨城 6%
	29年	30,542	237	237	241	224	
	5ヵ年平均	31,268	224	—	—	—	
	30年見通し	27,800	271	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知と北海道を中心に入荷する。愛知は根菜、葉菜、果菜、北海道は土物が中心。10月の台風や冷え込み等の影響で、1月は顕著な高値となった。低温が続いており、2月も入荷減の高値傾向となる見通し。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。							
だいこん	25年	1,651	94	109	88	90	静岡 50%
	26年	1,879	84	77	90	89	徳島 17%
	27年	1,755	83	92	78	85	千葉 13%
	28年	1,771	79	83	72	88	愛知 10%
	29年	1,709	90	90	90	95	
	5ヵ年平均	1,753	86	90	84	89	
	30年見通し	1,450	170	200	170	140	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
静岡を中心に徳島、千葉、愛知などから入荷する。10月末の台風と低温により1月の入荷は少なく、2月もその影響が続く。下旬からは台風以降の播種分が入荷されるが、それまでは高値が続くとみられる。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。							
にんじん	25年	1,984	125	118	127	135	愛知 96%
	26年	1,890	129	112	135	151	鹿児島 3%
	27年	2,055	73	69	75	78	熊本 1%
	28年	1,961	97	107	94	92	
	29年	1,994	138	135	138	141	
	5ヵ年平均	1,977	112	108	113	119	
	30年見通し	1,850	200	200	200	200	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知が主産地となる。だいこんと同様に10月の台風と曇天続き等により生育不順となっている。各産地ともに小ぶり傾向で、全体的に入荷が落ち込んでいる状況。入荷量は前年をかなり下回り、価格は高値だった前年を大幅に上回る見込み。							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	25年	119,361	222	232	210	225	千葉 17%
	26年	119,763	236	226	244	265	茨城 13%
	27年	119,044	246	243	246	249	北海道 13%
	28年	120,492	260	263	260	256	愛知 8%
	29年	117,268	256	254	259	256	神奈川 8%
	5ヵ年平均	119,186	244	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	119,000	270	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>関東産地、西南暖地からの入荷が中心となる。秋の天候不順の影響から脱する品目が増えるも、年明け後も続く低温、干ばつにより生育遅延や小玉傾向が見られる。月の前半は寒さが続き緩慢な入荷となる。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
だいこん	25年	11,672	100	110	94	96	神奈川 60%
	26年	12,056	89	79	114	74	千葉 31%
	27年	12,073	92	97	85	94	鹿児島 4%
	28年	12,215	80	86	69	83	徳島 2%
	29年	11,607	90	87	92	93	静岡 1%
	5ヵ年平均	11,925	90	92	91	88	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	8,200	150	150	150	150	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>神奈川、千葉を中心に入荷する。低温、干ばつによる生育遅れに加え肥大不足。他品目同様、価格高による前倒し収穫で切り上がり及早まる畑が多く、小ぶり傾向での収穫も影響し収量は伸びない。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は先月より下がるも前年を大幅に上回る高値が続く見込み。</p>					
にんじん	25年	6,329	135	136	132	136	千葉 71%
	26年	6,040	154	136	164	171	埼玉 9%
	27年	6,657	85	84	84	88	茨城 7%
	28年	7,166	92	96	90	91	鹿児島 7%
	29年	6,243	161	152	162	172	中国 1%
	5ヵ年平均	6,487	124	120	125	130	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	6,200	180	170	180	190	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉からの入荷が中心となる。年内の潤沢な入荷が一段落し、ピークが過ぎて小ぶり傾向に転ずる。残量も少なく2月は緩やかに減りながら推移する。数量減少に伴い価格も徐々に回復すると見込まれる。入荷量は前年並、価格は品薄感も強まり前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月16日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうろくさい	25年	3,058	79	75	80	85	兵庫 44%
	26年	2,635	71	68	78	68	茨城 29%
	27年	2,778	65	66	62	71	愛知 20%
	28年	2,296	85	79	78	108	三重 4%
	29年	2,318	112	99	125	112	
	5ヵ年平均	2,617	81	77	83	87	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	2,100	140	140	140		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
兵庫、茨城、愛知などから入荷する。10月の台風と天候不順から他品目同様に生育は良くなく、各産地とも少ない入荷予想。低温が続いた場合、少ない入荷状況が長引くことも懸念される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は高値だった前年を大幅に上回る見込み。							
キヤベツ	25年	3,420	105	115	94	110	愛知 92%
	26年	2,978	109	120	107	105	茨城 3%
	27年	3,519	91	91	95	96	熊本 2%
	28年	3,864	62	62	67	63	滋賀 1%
	29年	3,259	122	131	127	114	
	5ヵ年平均	3,408	96	102	97	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	2,600	200	200	200		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知が主産地となる。10月の台風の影響で根張りが弱い所に低温もあり、生育不良が見られる。入荷物も小玉傾向で作柄は良くない。春系は増える見込みだが、2月もこの影響は続く見通し。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は高値だった前年よりも大幅に上回る見込み。							
ほうろ	25年	398	406	431	380	452	愛知 71%
	26年	357	412	413	418	443	茨城 16%
	27年	324	551	561	587	544	群馬 5%
	28年	294	581	616	583	577	徳島 4%
	29年	399	479	524	501	417	
	5ヵ年平均	354	479	503	486	480	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	330	500	600	500	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知を中心に茨城などからも入荷する。10月の台風の影響を受けて大幅な入荷減と価格高での販売情勢が続いている。2月は台風後に蒔き直した分が入荷され、数量は回復してくると思われる。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をやや上回る見込み。							

東京都中央卸売市場

1月31日現在

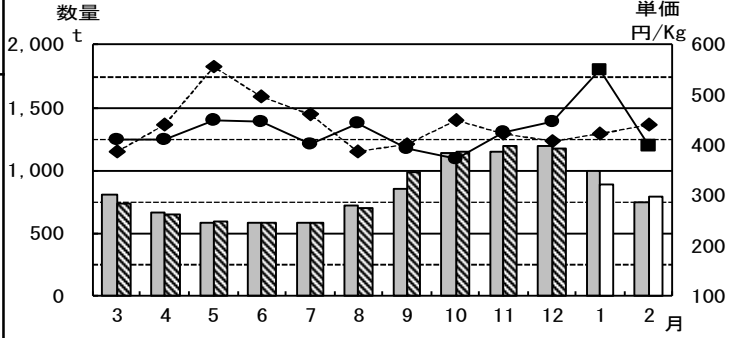
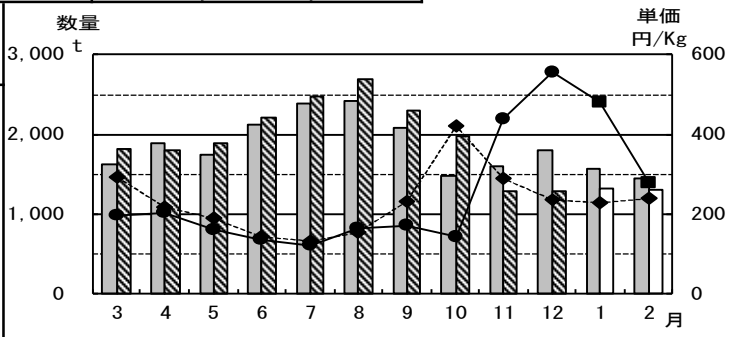
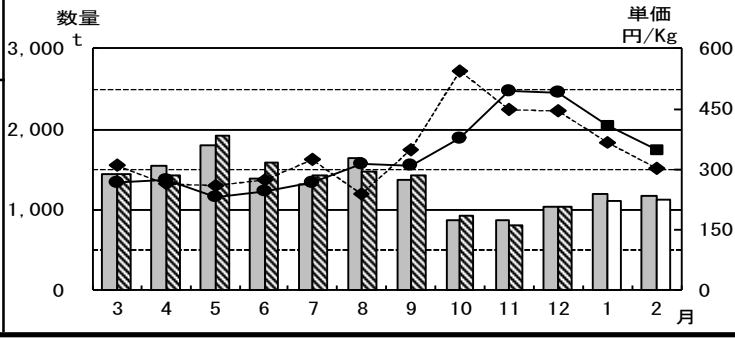
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ほうき	25年	12,660	74	72	75	茨城	67%	
	26年	13,019	71	68	60	群馬	14%	
	27年	11,930	49	53	48	兵庫	14%	
	28年	11,091	61	57	83	埼玉	3%	
	29年	11,287	99	87	111			
	5ヵ年平均	11,997	71	67	73	前年及び本年の 入荷量・価格の動き		
	30年見通し	10,200	140	135	140	145		
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>茨城、兵庫からの入荷が中心となる。年内は潤沢な入荷だったが、残量は少なく小玉傾向のため入荷量が減ってくる。価格は2月後半の減少予想を背景に高止まり気配となる。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は1月に引き続き前年を大幅に上回る見込み。</p>							
キャベツ	25年	14,005	109	117	95	115	愛知	50%
	26年	13,804	113	115	110	111	千葉	28%
	27年	14,711	94	96	94	92	神奈川	16%
	28年	15,890	67	67	68	66	茨城	4%
	29年	13,889	129	128	129	130		
	5ヵ年平均	14,460	101	103	98	102	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	30年見通し	12,500	150	180	140	130		
べ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>愛知、千葉、神奈川からの入荷が中心となる。各産地とも小玉傾向。入荷は長引く寒波の影響を強く受けるが、2月後半からは春系も平年並の入荷が見込まれる。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は下落するが前年を大幅に上回る見込み。</p>							
ほうれんそう	25年	1,831	362	386	310	398	群馬	30%
	26年	1,476	483	412	553	514	茨城	27%
	27年	1,688	477	462	503	467	千葉	18%
	28年	1,380	534	634	479	481	埼玉	16%
	29年	1,718	408	424	419	373	栃木	6%
	5ヵ年平均	1,619	447	457	447	442	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	30年見通し	1,550	500	600	500	400		
ん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
	<p>群馬、茨城など関東産地からの入荷が中心となる。全体数量は少ないものの、連休前後より、順調に生育している「11月播種もの」が出始める。各産地とも気温次第の面はあるが状況は改善に向かう。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

1月16日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	25年	916	329	339	321	343	大分 27%
	26年	827	405	347	491	415	静岡 19%
	27年	944	341	343	346	348	愛知 14%
	28年	903	392	405	374	420	群馬 11%
	29年	755	442	407	476	460	
	5ヵ年平均	869	379	367	397	394	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	800	400	400	400	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
大分、静岡、愛知などの各産地から入荷する。10月の台風の影響で葉の曲がりなどが見られるが、大分、静岡は順調な入荷の見込み。愛知も中旬以降には増加する見通し。鳥取は天候不順の影響で入荷減か。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。							
レタス	25年	1,378	292	358	252	269	兵庫 35%
	26年	1,529	226	228	213	241	熊本 17%
	27年	1,620	285	275	295	286	愛知 12%
	28年	1,274	326	318	347	312	静岡 12%
	29年	1,445	241	263	241	222	
	5ヵ年平均	1,449	272	286	268	265	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,300	280	330	270	240	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
兵庫、熊本、愛知、静岡などから入荷する。1月現在は10月の台風被害を受けた時期のレタスが入っており、大幅な入荷減と価格高の販売情勢。2月中下旬には台風後に定植した分が入り価格は落ち着くか。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。							
きゅうり	25年	1,168	298	320	277	328	愛知 58%
	26年	1,187	336	302	357	384	宮崎 17%
	27年	1,152	365	424	358	325	高知 14%
	28年	1,158	412	491	387	366	鹿児島 10%
	29年	1,180	304	328	302	278	
	5ヵ年平均	1,169	343	372	336	336	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,130	350	400	330	320	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知を中心に宮崎などの西南暖地から入荷する。生育は概ね順調であるが、低温や日照不足の影響により、入荷が大幅に増加することはないと思われる。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。							

東京都中央卸売市場

1月31日現在

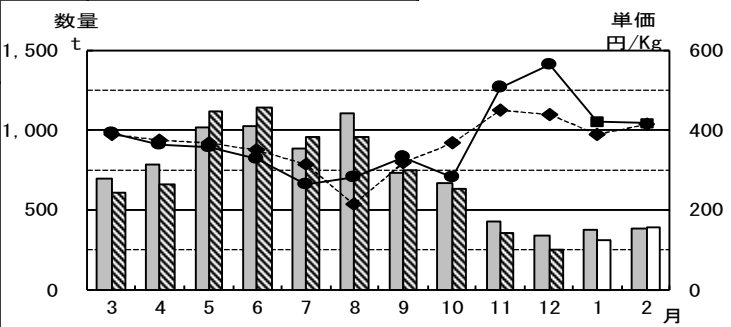
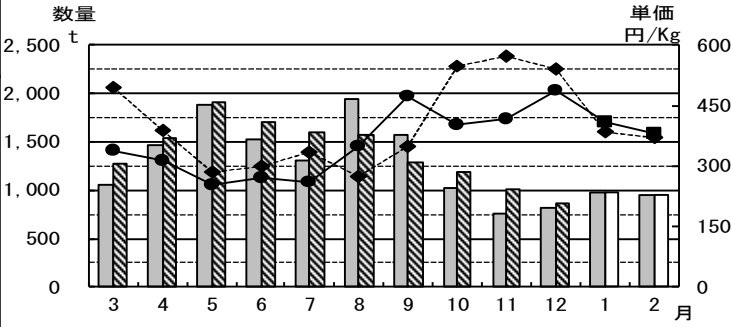
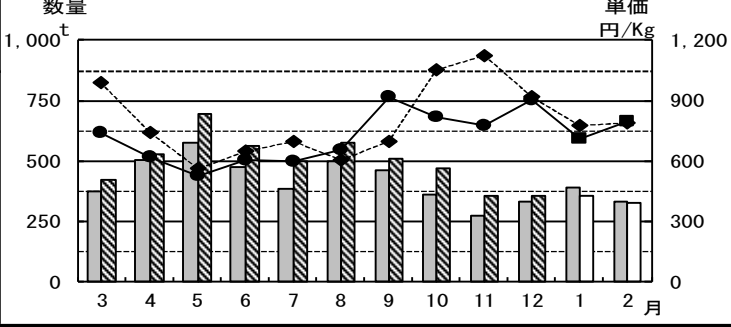
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	25年	4,929	290	287	285	301	千葉 39%
	26年	4,601	397	311	507	380	埼玉 23%
	27年	5,053	293	281	281	321	茨城 12%
	28年	5,136	331	336	321	336	群馬 7%
	29年	4,456	371	339	398	384	栃木 5%
	5ヵ年平均	4,835	335	310	355	343	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	4,500	330	330	330		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉県、埼玉県など関東産地からの入荷が中心となる。各産地とも遅れていた生育が回復に向かう。先月までの高値の反動で価格は下げ気配。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
し	25年	6,208	278	355	231	246	静岡 27%
	26年	7,098	216	221	207	219	茨城 16%
	27年	6,470	282	279	295	271	香川 16%
	28年	6,289	310	306	329	294	千葉 8%
	29年	6,870	231	248	231	212	長崎 7%
	5ヵ年平均	6,587	262	280	257	271	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	6,800	240	260	230	230	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>静岡、茨城、香川からの入荷が中心となる。各産地とも小玉傾向だが、連休明け以降は入荷がまとまり下げ基調となる。台風後の定植集中の影響が懸念されるが、気温次第。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
きゅうり	25年	4,932	313	325	283	332	宮崎 29%
	26年	4,496	370	313	400	409	千葉 21%
	27年	4,701	402	465	384	356	群馬 15%
	28年	4,986	446	526	409	404	高知 14%
	29年	5,040	316	341	315	286	茨城 11%
	5ヵ年平均	4,831	369	395	357	356	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	4,800	350	390	350	310	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>宮崎、千葉、群馬、高知からの入荷が中心となる。各産地とも低温により生育停滞気味だが、例年2月は関東産地を中心に春作での増量が見込まれる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	25年	429	371	408	365	355	熊本 47%
	26年	415	359	332	367	389	愛知 46%
	27年	406	437	451	448	417	高知 7%
	28年	424	485	575	464	441	
	29年	392	419	424	421	410	
	5ヵ年平均	413	414	438	413	402	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	400	420	420	420	420	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本の長なす、愛知の千両が中心となる。弱樹勢や着花不良などの原因で、年内は入荷が少なめとなった。2月も低温などの天気の影響のため、大幅な入荷増は見込めない見通し。 入荷量はわずかに上回り、価格は前年並となる見込み。							
マ ト	25年	829	379	343	374	429	熊本 51%
	26年	870	370	337	362	423	愛知 24%
	27年	856	447	402	450	493	三重 13%
	28年	978	437	519	395	403	岐阜 11%
	29年	950	372	391	374	350	
	5ヵ年平均	897	401	402	391	418	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	950	380	380	380	380	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本を中心に愛知、三重、岐阜などから入荷する。10月の天候不順やその後の低温の影響から回復傾向にあるが、1月上中旬は冷え込みにより着色が遅れており、入荷が伸び悩む状況。 入荷量は前年並で、価格は前年をわずかに上回る見込み。							
ミ マ ト	25年	285	739	741	745	744	熊本 53%
	26年	294	733	670	753	786	愛知 35%
	27年	301	847	793	868	872	和歌山 8%
	28年	332	932	945	913	937	宮崎 4%
	29年	335	793	814	798	780	
	5ヵ年平均	310	812	797	818	826	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	330	800	800	800	800	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
熊本、愛知を中心に和歌山などからも入荷する。概ね順調な生育状況だが、厳寒期のため大幅な入荷量の増加はなく、2月は例年同様に高値基調で推移する見通し。 入荷量及び価格はともに前年並となる見込み。							

東京都中央卸売市場

1月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	25年	2,015	411	418	392	423	高知 64%
	26年	2,002	430	375	468	465	福岡 15%
	27年	1,937	499	559	504	443	熊本 9%
	28年	2,250	488	554	456	463	佐賀 5%
	29年	2,114	466	459	465	475	栃木 3%
	5ヵ年平均	2,064	459	474	457	454	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	2,100	500	500	500		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知からの入荷が中心となる。高知は生育は概ね良好だが、低温により生育が遅れている。福岡は1月の冷え込みで花が流れており2月は横ばい。大きな変化はない。入荷量は前年並で、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					
ト マ ト	25年	4,723	409	378	394	457	熊本 36%
	26年	4,982	383	354	373	455	栃木 21%
	27年	4,708	470	424	485	506	愛知 12%
	28年	5,387	474	553	438	433	千葉 5%
	29年	5,447	404	433	406	370	静岡 4%
	5ヵ年平均	5,049	428	431	419	442	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	5,300	380	360	390	390	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、栃木、愛知からの入荷が中心となる。熊本は低温による着色遅れ。栃木は冷え込み厳しく生育遅れ。愛知は回復基調の産地が多く、前年は下回るが平年を上回る入荷が見込まれる。入荷量は前年をやや下回り、価格も前年をやや下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	25年	1,089	756	752	763	754	熊本 36%
	26年	1,251	704	629	735	780	愛知 19%
	27年	1,161	845	791	881	865	宮崎 19%
	28年	1,339	951	1,007	911	932	千葉 9%
	29年	1,433	715	742	702	695	静岡 6%
	5ヵ年平均	1,255	794	787	797	804	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,450	720	720	720	720	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知、宮崎からの入荷が中心となる。一部の産地に作付面積増の動きはあるが、厳寒期に入っており、入荷の極端な変動には繋がらない。入荷量、価格はともに前年並の見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	25年	378	652	734	640	615	宮崎 45%
	26年	364	666	652	658	679	鹿児島 45%
	27年	405	719	724	727	710	高知 10%
	28年	380	768	825	787	703	
	29年	442	575	604	602	528	
	5カ年平均	394	673	705	681	644	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	380	750	800	750	700	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>鹿児島、宮崎を中心に一部は高知からも入荷する。作柄は各県ともに良好で例年に近い入荷量が見込まれるが、1月中下旬の寒波の影響による入荷減も予想される。入荷量は前年をかなり下回るが平年並で、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
ばれいしょ	25年	2,642	106	105	107	107	北海道 59%
	26年	2,722	119	113	116	125	鹿児島 36%
	27年	3,120	130	120	129	137	長崎 4%
	28年	3,040	189	177	206	181	熊本 1%
	29年	2,676	238	225	250	243	
	5カ年平均	2,840	156	148	162	159	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	2,800	140	130	140	150	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、鹿児島を中心に入荷する。北海道の貯蔵物は前年並の入荷見通し。鹿児島は小玉傾向で例年よりも作柄は良くないと思われる。春ばれいしょは2月の入荷はない見通し。入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	25年	5,497	86	92	91	87	北海道 91%
	26年	5,072	126	139	134	135	静岡 8%
	27年	4,999	102	101	103	108	愛知 1%
	28年	6,413	85	82	91	89	
	29年	6,218	87	86	93	84	
	5カ年平均	5,640	96	98	101	99	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	5,500	105	105	105	105	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に静岡、愛知から一部入荷する。北海道は前年よりやや少ない見通しだが順調な入荷を見込む。静岡、愛知は10月の天候の影響で若干遅れているが、2月中下旬には回復してくる見通し。入荷量は前年をかなり下回るが平年並で、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

1月31日

現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	25年	1,227	654	765	608	597	宮崎 42%
	26年	1,288	671	666	667	681	茨城 24%
	27年	1,295	730	751	730	704	高知 19%
	28年	1,324	799	881	812	703	鹿児島 14%
	29年	1,516	595	626	616	542	
	5カ年平均	1,330	688	735	686	643	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	1,500	800	740	830	830	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>宮崎など西南暖地と茨城からの入荷が中心となる。主力産地では大きな問題はないものの、低温や成り疲れのため急激な入荷量の増加はないと見込まれる。 入荷量は前年並で、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
白菜	25年	8,239	94	98	95	90	北海道 70%
	26年	8,893	110	105	110	118	鹿児島 23%
	27年	8,251	115	107	114	127	長崎 7%
	28年	6,945	182	178	181	188	
	29年	6,604	227	224	231	226	
	5カ年平均	7,786	140	137	141	145	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	6,600	130	120	130	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道、鹿児島、長崎からの入荷がほとんどを占める。北海道の貯蔵物は小玉傾向。九州は植え付け時の天候不順と冬の低温で小ぶり。作付け増でカバーできるか。 入荷量は前年並、価格は品薄感から高値となった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	25年	9,453	98	92	99	103	北海道 83%
	26年	10,028	145	144	146	144	静岡 13%
	27年	10,546	112	110	111	117	中国 2%
	28年	11,034	98	93	101	99	長崎 1%
	29年	11,722	104	100	103	110	
	5カ年平均	10,557	111	107	112	114	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	30年見通し	11,700	110	110	110	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>北海道を中心に静岡、長崎から入荷する。北海道は貯蔵量に問題ないが出荷が抑えられ安定した価格を維持する見込み。静岡は一部冠水による品質低下が見られるも大きな影響はない。 入荷量は前年並、価格は入荷安定し前年をやや上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

1月16日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	25年	8,942	344	324	339	362	青森 18%
	26年	8,854	364	352	348	387	静岡 16%
	27年	8,543	383	370	392	385	愛知 13%
	28年	7,698	422	409	424	440	フィリピン 11%
	29年	7,821	400	379	396	435	
	5ヵ年平均 30年見通し	8,372 7,400	381 420	— —	— —	— —	— —
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>青森、静岡、愛知などから入荷する。品目はみかんを含むかんきつ、いちご、りんごが中心。10月の台風等の影響と早期の低温で入荷の少ない情勢が続き、特にみかんは当初予想を上回る大幅減となっている。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>						
り	25年	1,825	258	260	257	258	青森 94%
	26年	1,654	304	304	305	306	秋田 3%
	27年	1,932	302	303	301	304	長野 2%
	28年	1,876	322	326	321	326	岩手 1%
	29年	1,522	308	321	297	299	
	5ヵ年平均 30年見通し	1,762 1,600	299 310	302 310	296 310	299 310	— —
んご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>青森が主産地となる。全体的に小玉傾向で上位等級が少ない。小玉から中玉は安定するも大玉は少なめとなる。青森は入荷の少なかった前年並～やや増の見通しだが、平年に比べると数量は少ないか。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並となる見込み。</p>						
いちご	25年	985	1,137	1,129	1,109	1,174	愛知 54%
	26年	946	1,218	1,285	1,260	1,120	熊本 26%
	27年	849	1,332	1,412	1,366	1,229	鹿児島 7%
	28年	683	1,465	1,522	1,416	1,448	佐賀 5%
	29年	825	1,234	1,360	1,225	1,125	
	5ヵ年平均 30年見通し	857 750	1,264 1,300	1,326 1,400	1,264 1,300	1,207 1,200	— —
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>愛知を中心に熊本、鹿児島などから入荷する。1月現在では低温による着色遅れや灰色かび病の発生などの問題が見られる。2月は入荷量の増加が見込まれるが、例年に比べて緩やかな増加となる見通し。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>						

東京都中央卸売市場

1月31日 現在

単位：入荷量=トン、卸売価格=円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	25年	36,838	357	344	359	369	静岡 20%
	26年	36,856	377	375	378	377	青森 18%
	27年	36,226	410	457	385	405	愛媛 16%
	28年	33,594	461	452	470	465	和歌山 6%
	29年	36,884	438	425	448	446	栃木 6%
	5ヵ年平均 30年見通し	36,080 35,500	408 450	— —	— —	— —	— —
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	りんご、みかん、いちご中心にかんきつ類の 入荷が本格化する。みかんは先月に引き続 き前年を下回る入荷となり高値が続く見込 み。かんきつ類は定番品種に加え、甘平、は るみなどが入荷する。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を わずかに上回る見込み。						
りんご	25年	6,594	241	244	242	237	青森 96%
	26年	5,755	291	293	289	292	秋田 2%
	27年	7,237	282	270	278	277	
	28年	7,365	304	295	306	311	
	29年	6,713	284	292	283	273	
	5ヵ年平均 30年見通し	6,733 6,500	281 290	279 290	280 290	278 290	
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	青森が本格的な販売シーズンを迎へ荷動き が活発化する。青森は小玉の比率が高いが、 価格は平年より高めで推移している。食味や 品質は安定しており、みかん類が入荷の少な い影響もあり引き合いは強い。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を わずかに上回る見込み。						
いちじ	25年	4,229	1,152	1,152	1,126	1,181	栃木 43%
	26年	4,192	1,233	1,290	1,253	1,153	福岡 20%
	27年	3,948	1,402	1,481	1,279	1,388	茨城 11%
	28年	3,813	1,445	1,568	1,414	1,347	佐賀 9%
	29年	4,850	1,260	1,319	1,259	1,193	静岡 7%
	5ヵ年平均 30年見通し	4,206 4,750	1,293 1,250	1,355 1,300	1,263 1,250	1,247 1,200	
さいご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	栃木を中心に福岡、茨城、佐賀などから入 荷する。栃木は低温で生育に若干の遅れがあ るが2番果の出荷ピークに入り、前月より増 加する。福岡は低温と曇天で着色に日数がか かっており、大玉傾向だが中旬に入荷ピーク を迎える見込み。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前 年並となる見込み。						

切り花・鉢花の2月の見通し

切り花（愛知名港花き地方卸売市場 1月31日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	実績等					
輪 ぎ	実績	25年	1,476	57		
		26年	1,457	47		
		27年	1,365	60		
28年		1,709	54			
29年		1,324	49			
5ヶ年平均	1,466	53				
30年見通し	1,350	50				
概要	愛知、沖縄、三重などから入荷する。前半は厳しい寒さが続き、落ち着いた入荷が続くと思われる。業務中心の動きで相場展開する見込み。					
小 ぎ	実績	25年	1,120	24		
		26年	1,002	25		
		27年	1,136	38		
28年		1,134	39			
29年		868	30			
5ヶ年平均	1,052	31				
30年見通し	850	33				
概要	沖縄を中心に入荷する。沖縄でも寒い日が多く、前年より作付けも減っていることから、入荷は少なめで推移すると思われる。					
カー ネ ー シ ョ ン	実績	25年	1,017	37		
		26年	915	42		
		27年	873	46		
28年		914	48			
29年		843	34			
5ヶ年平均	912	41				
30年見通し	840	40				
概要	愛知を中心に和歌山、長野から入荷する。10月の台風からの低日照に加え、厳しい寒さが続き、農産物全般が不作の中で重油高なども重なり2月も入荷は増えない見通し。業務需要は安定しているため、少し高めで安定取引される見込み。					
か す み	実績	25年	162	67		
		26年	178	68		
		27年	199	68		
28年		197	71			
29年		180	59			
5ヶ年平均	183	67				
30年見通し	180	65				
概要	高知、和歌山、熊本から入荷する。気温が低い日が続く、出荷は少ない見込み。業務中心の販売で、バレンタイン需要から後半の桃の節句需要と中旬以降の一般需要も見込める。上位から下位等級まで引き合いもあり、安定した相場となる見込み。					

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	25年	286	169	
		26年	239	205	
		27年	225	207	
		28年	281	175	
		29年	230	164	
	5ヶ年平均	252	183		
30年見通し	230	175			
概要	OHは高知、埼玉、宮崎などからの入荷で業務中心の販売。気温が低い日が続く、出荷も急激には増えず、中旬以降に増加する見通し。鉄砲、LAは少ない入荷。業務中心の販売で安定した相場となる見込み。				
洋 らん	実績	25年	424	69	
		26年	432	77	
		27年	444	77	
		28年	453	82	
		29年	350	80	
	5ヶ年平均	421	77		
30年見通し	400	80			
概要	高知、徳島、愛知、宮崎などの国内産と輸入物が入荷する。前年末から1月にかけて低温の影響で入荷が少なかったが、2月に入って入荷が増えてくることが予想される。3月を前にして弱気調で推移する見込み。				
ば ら	実績	25年	663	87	
		26年	632	94	
		27年	610	87	
		28年	657	83	
		29年	558	75	
	5ヶ年平均	624	85		
30年見通し	600	80			
概要	愛知、三重、岐阜、和歌山を中心に入荷する。2月前半は落ち着いた入荷で、後半から徐々に回復する見込み。フラワーバレンタイン等の新しいイベントも定着する兆しがある。				
枝 も の	実績	25年	1,719	42	
		26年	1,871	39	
		27年	1,732	42	
		28年	1,656	44	
		29年	1,437	43	
	5ヶ年平均	1,683	42		
30年見通し	1,500	44			
概要	花桃も本格的な出荷となり、中旬から下旬にかけて堅調な動きとなる見込み。ミモザ、アカシア、ユーカリも引き合い強く、中下旬は堅調な販売となる見込み。				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
工 績 リ	実 績	25年	13,241	185	
		26年	11,479	196	
		27年	11,000	211	
		28年	10,881	209	
		29年	7,391	184	
	5ヶ年平均		10,798	197	
	30年見通し		7,400	184	
カ	概 要	入荷はポット物を中心にほぼ平年並の予想。時期により品種が変わっていくため市況は読みにくい。ここ数年の傾向を見ると全体的に厳しくなると思われる。 前年2月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位静岡（36.7%）、2位新潟（33.8%）、3位愛知（9.1%）となっている。			
プ 績 ム ラ	実 績	25年	314,984	87	
		26年	288,174	89	
		27年	252,352	84	
		28年	208,852	102	
		29年	251,311	85	
	5ヶ年平均		263,135	89	
	30年見通し		250,000	84	
ラ	概 要	入荷量は前年並か。ジュリアンは一重、バラ咲き共に前年末からの出荷が多く1月中で終了し、2月は大幅に減少する見込み。マラコイデス、オブユニカ、ポリアンサは前年並の作付けだが、数量に反し、単価面は需要も少なく安価での推移か。 前年2月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知（44.7%）、2位埼玉（11.0%）、3位奈良（8.7%）となっている。			
チ ュ ー リ ッ プ	実 績	25年	39,457	159	
		26年	38,809	189	
		27年	40,200	201	
		28年	37,189	200	
		29年	28,077	180	
	5ヶ年平均		36,746	186	
	30年見通し		28,000	180	
プ	概 要	入荷量は前年並か。5号以上の大きいサイズは減少傾向で、4号以下のサイズが入荷の中心となり引き合いも4号以下が強いと思われる。 前年2月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知（30.4%）、2位埼玉（24.2%）、3位茨城（20.0%）となっている。			

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
サイネリア	実績	25年	75,566	228	
		26年	64,250	245	
		27年	62,598	240	
		28年	74,095	249	
		29年	60,599	229	
	5ヶ年平均	67,422	238		
	30年見通し	59,000	229		
概要	<p>6号鉢は生産量の減少と共に入荷量も減少予想。5号鉢は一部地域で悪天候の影響で出荷ができなくなったことや、1月市況が厳しいこともあり、入荷量は非常に不安定で減少する予想。4号鉢は平年並の予想。単価は卒業や卒園の需要期に入ると注文増や市況が安定するため時期にもよるが、全体的には前年よりも厳しい状況が予想される。前年2月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位埼玉(23.0%)、2位愛知(19.9%)、3位兵庫(13.6%)となっている。</p>				
マーガレット	実績	25年	55,728	151	
		26年	54,656	161	
		27年	63,089	164	
		28年	58,597	185	
		29年	47,725	170	
	5ヶ年平均	55,959	166		
	30年見通し	47,000	170		
概要	<p>寒冷期の生産調整もあり、入荷量は前年並か少し減少する見込み。市況については例年通り月後半からの卒業、卒園需要の高まりから、引き合いとともに尻上がりに良くなる見込み。前年2月の主要県の集荷実績は金額ベースのシェアで1位静岡(26.7%)、2位愛知(24.6%)、3位埼玉(17.7%)となっている。</p>				
デンドロビウム	実績	25年	30,684	846	
		26年	30,506	866	
		27年	31,288	881	
		28年	32,626	811	
		29年	25,502	712	
	5ヶ年平均	30,121	827		
	30年見通し	26,000	712		
概要	<p>入荷量は1月の出荷が遅れた分、例年並か少し多くなる見込みだが、4号～5号の生産量が減っているため、6号サイズの出荷が主になる見通し。前年の秋の天候不順のため、株の充実が遅く開花が遅れている状況。出荷規格が5鉢入り以上の商品はミックス出荷が好まれる。前年2月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知(35.6%)、2位高知(16.5%)、3位岡山(9.1%)となっている。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.536
平成30年2月発行
農林水産部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434